

★今週の聖書：ヨハネによる福音書 20章 1～18節

(皆さんの聖書で探して開けてみましょう。聖書の「目次」を利用！)

★今週の賛美歌：335番

(皆さんの「讚美歌 21」で開けてみましょう。番号は各ページの左上に、大きな太文字で書かれています。)

★チャペル・メッセージ

さて、【電子かわら版 チャペル・アワー No.001】でお話した、「イースターって何？」を踏まえて、「今週の聖書」を開いて、イースターの祭りの起源になった出来事について、「ヨハネによる福音書」が記している物語を通してみましょう。



それは、日曜日の早朝、まだ薄暗い時間の出来事でした。その日曜の直前の木曜日の夜、弟子たちと食事をした後、ゲッセマネ、という公園を散歩していたイエスは、そこで、突然、ユダヤの神殿の兵士やローマ軍の軍団に取り囲まれて逮捕されました。そして夜通し拷問付きの尋問に耐え、金曜の朝、ローマ総督によって死刑宣告を受け、そのまま、ゴルゴタの丘まで自分が磔にされる十字架を背負って歩かされ、その十字架上に両手・両足をくぎ付けにされて午後3時ごろ息絶えます。最後まで逃げずに残った女性の弟子たち(母マリアも含む)がイエスを、日が暮れるまでに急いで墓に葬りました。土曜日はユダヤの聖なる日(安息日)で、完全な休息をとらなければならなかったからです。そして、安息日が終わってすぐ、日曜の夜明けに、イエスの遺体を、もう一度丁寧に葬るために、女性の弟子たちが墓を訪れました。その女性たちが、墓が空っぽであることをみつけた、というのが、イースターの出来事の最初です。

大事な先生の遺体が墓から消えてしまったことは、女性たち、そして逃げ隠れしていた男の弟子たちをも驚かせました。特にマグダラのマリア(母マリアとは別のマリアです)という弟子は、誰かがイエスの遺体を盗んだのではないかと空っぽの墓の前で涙にくれます。そして、もしかしたら、墓の穴の中の死角にでも動かされているのではないかと穴の中を覗き込んだ、その時。

白い衣を着た2人の天使がマリアに声を掛けます。マリアは、この2人が「天使だ」ということに気が付いていません。だから、彼女はこの2人にもイエスの遺体が見つからないことを訴えるだけです。そして「遺体を探す」ことに懸命の視線のまま、後ろを振り返った彼女には、そこに立っている「復活のイエス」は、墓を管理する「園丁」にしか見えなかったのです。すぐまた空っぽの墓穴のほうに向きなおったマリアは、再び「イエスの遺体」を求めて嘆くのでした。しかし。

「復活のイエス」がマリアの名を呼びました。そしてマリアは、今度は、その呼びかけに答えて「振り向き」ます。すると、園丁だと思い込んでいたその人物が、まさに彼女が探しているイエスご自身であると気づいたのでした。先ほども、この同じ人物を「見て」いたはずなのに、そ

の時は解りませんでした。「遺体」となったイエスを探すことに執着している彼女には、「復活したイエス」が見えなかったのです。

「振り向く」と日本語に訳されている言葉は、福音書がもともと書かれた言語であるギリシャ語では「振り向かされる」という意味の言葉が使われています。自分で「振り向く」、「自分で方向を変える」というのでなく、イエスに呼ばれて初めて見るべき方向を変えたのです。マリアは最初、自分の思いであちらこちらと方向を変えて見まわす中で「復活のイエス」にも目を留めました。しかしその時、マリアの目には「園丁」しか映りません。一方二度目は、「復活のイエス」に名前を呼ばれ、それに応えて振り向きます。自分が思う方向でなく、イエスに呼ばれて、その声の方向へと向きなおったマリアの目が「復活のイエス」を捉えることが出来ました。

自分の望みのものを、自分の思い込みにだけ基づいて探しているとき、マリアには、本当に見出すべき方の姿は「取るに足らない園丁」にしか映りませんでした。しかし、「復活のイエス」の呼びかけに応えて、その方角へと向きなおった時、彼女は本当に求めていた方を、その視界にとらえることができたのです。

そして更に、この物語は、「求めていたものを見出す」ことのその先へと一步を踏み出すことをも勧めます。本当に見出すべき「復活のイエス」をその目に見た時、最初、マリアはイエスにすがり付こうとしました。ところが、イエスは、そのマリアを「すがりつくのはやめなさい」と拒否します。なぜでしょう？

イエスは「私はまだ父＝神の元まで昇っていない」から、と言います。ここに留まるわけにはいかない、と。イエスは、まだその使命を果たす途上におり、誰も、その自分を墓の前に足止めすることはできない、と言っているのです。そしてイエスはマリアにも、墓の前でイエスにすがりつくのではなく、ここから始まる新たな使命のために歩みだすことを望んだのです。その使命とは「私は主を見ました」と、他の弟子たちに伝えること、マリアが墓の前で体験した出来事を多くの人に伝えることです。

今まで、探しても探してもみつからなかったものが皆さんにはあるでしょう。どこを探しても見つからない、手に入らない、その苛立ちやくやしき、悲しみを多くの皆さんはご存じでしょう。しかし、この春、ヨハネ福音書のこの復活の物語は、私たちに、イエスの声に応えて、その方向に「振り返る＝方向を転換する」ことを勧めます。自分の名を呼んでくださる存在の声に応えて「振り向く」とき、そこには、今まで知っていたものとは違う「視界」が拓けるでしょう。そして、そこに捉えた「求めていたもの」にすがりつくのではなく、それを見出した喜び、見出したことによって得た「新たないのち」を、仲間に、そしてより広く、遠く伝えていくことを、「復活のイエス」は今日も私たちに望んでくださるでしょう。

それぞれの新たな使命、新たな道を、私たちは一緒に、この春から歩みだすのです。

【祈り】

神さま、「新たな使命」に踏み出す私たちを支え、守ってください。

アーメン。